

Better Health, Brighter Future



連結業績の概要

2015年度 第3四半期

2016年2月3日

ルドルフ・ファン・ハウテン チーフ フィナンシャル オフィサー 代行

武田薬品工業株式会社



重要な注意事項

将来見通しに関する注意事項

本資料には、見積り、予測値、目標値及び計画値等の、当社の将来の事業、財務状態及び経営成績に関する「見通し情報」が含まれています。これらの見通し情報は、「目指す」、「予測する」、「仮定する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「予想する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「見通し」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「試算」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」及びその類義語（これらに係る否定的な表現も含まれます。）等の将来予測に関する用語の使用、又は戦略、計画若しくは意図に関する議論により特定可能な場合があります。

本資料中のあらゆる見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社の現時点における仮定及び判断に基づいています。かかる見通し情報に関して、当社及び当社の経営陣は将来の業績に係るいかなる保証もするものではなく、また、当該見通し情報には、既知又は未知のリスク、不確実性その他の要素が含まれています。そのような要素の例としては、日本、米国及び世界全体の一般的な経済情勢を含む当社の事業を取り巻く経済状況、競争圧力及び競争の激化、適用法令、新製品開発計画の成否、規制当局の決定及びそのタイミング、為替相場の変動、製品又は開発品の安全性や有効性に関するクレーム又は懸念、並びに買収対象会社との経営統合等がありますが、これらに限定されるものではなく、またいずれかの要素に起因して、当社の実際の業績や財務状態が、見通し情報により表示又は示唆されている将来の業績や財務状態から大きく乖離する可能性があります。当社及び当社の経営陣は、見通し情報において表示されている予測が現実となることを保証するものではなく、実際の業績は予測と大きく異なる可能性があります。

本資料に含まれる見通し情報は、本資料の日付時点のものに過ぎず、今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社及び当社の経営陣は、本資料に含まれる見通し情報の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

製品情報に関する注意事項

本資料には、当社の製品情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で販売されているものではありませんし、また国によって商標、効能、用量等が異なる場合もあります。また、本資料に記載されている医療用医薬品（開発品を含む）の情報は、そのような製品を宣伝・広告するものではありません。



開示項目の定義

実質的な成長

- 「**実質的な成長**」とは、事業活動のパフォーマンスを実質的に把握することを目的として、当期と前年同期の業績を共通の基準で比較するものです。
- 「**実質的な成長**」の算定にあたっては、為替影響や製品売却および取得、企業買収にかかる会計処理の影響や無形資産の償却費・減損損失、事業構造再編費用、主な訴訟費用などの特殊要因を除いています。
- 当社は売上収益、Core Earnings、Core EPS の「**実質的な成長**」をマネジメントガイダンスとして示しております。

Core Earnings と Core EPS の定義については Appendix をご参照ください。

これらの指標は会計基準に基づくものではなく、内部管理目的の指標であり、監査を受けておりません。



持続的な成長に向けて 第3四半期ハイライト

- 第3四半期累計の実質的な成長:
売上収益 +3.8%、Core Earnings +1.5%、Core EPS +17.3%
- 連結売上収益の半分を占めるタケダの成長ドライバー(消化器系疾患(GI)、
オンコロジーおよび新興国事業)は、前年同期から +8.5%の力強い成長を実現
- エンティビオは20億ドル以上のピークセールスに向けて成長
- ニンラー口を2015年12月に米国で発売
- 第3四半期の日本の医療用医薬品事業は、新製品の伸長で後発品浸透による
減収を吸収
- Project Summitの年間のコスト削減目標を既に達成
- 営業フリー・キャッシュ・フローは前年同期から大きく増加、さらなる改善は必要

2015年度のマネジメントガイダンスは変更なし



損益計算書（財務ベース）



損益計算書 (財務ベース)

	14年度 第3四半期累計	15年度 第3四半期累計	増減	
売上収益	13,400	13,933	+533	+ 4.0%
売上総利益	9,536	9,908	+372	+ 3.9%
販売費	3,173	3,360	+187	+ 5.9%
一般管理費	1,207	1,395	+188	+ 15.5%
研究開発費	2,492	2,539	+47	+ 1.9%
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	1,265 *1	931	△334	△ 26.4%
その他の営業収益	947 *2	209	△738	△ 77.9%
その他の営業費用	354 *3	217	△137 *4	△ 38.7%
営業利益	1,991	1,675	△316	△ 15.9%
金融損益、その他	(115)	(129)	△14	+ 12.1%
税引前四半期利益	1,876	1,546	△330	△ 17.6%
法人所得税費用	1,052 *5	382 *6	△670	△ 63.7%
非支配持分	26	27	+1	+ 4.6%
四半期利益	797	1,136	+339	+ 42.5%
EPS	101 円	145 円	+ 44 円	+ 43.0%
為替レート	円/ドル 106	円/ユーロ 122		
	円/ユーロ 140	134		

(億円)

*1 コルクリスに係る減損損失
305 (損)

*2 コルクリスに係る条件付
対価の再評価 564 (益)
不動産売却益 254 (益)

*3 TAK-700 (orteronel) の
開発ターミネーションコスト
49 (損)

*4 事業構造再編費用の減少
△77

*5 試験研究費に係る税額
控除の再評価 427 (損)

*6 子会社の減資に伴う税金費
用影響 -145 (益)



実質的な成長：売上収益



売上収益は年間ガイダンスに沿って引き続き成長

	14年度 第3四半期累計	15年度 第3四半期累計	第3四半期累計 成長率	第1四半期 成長率	第2四半期 成長率	第3四半期 成長率
売上収益	13,400	13,933	+ 4.0%	+ 8.5%	+ 4.0%	+ 0.1%
為替影響*	412	214				
売却/取得	△ 202	△ 25				
実質的な売上収益	13,609	14,121	+ 3.8%	+ 6.1%	+ 1.6%	+ 3.8%

(億円)

14年度: 水澤化学工業(株)の株式売却 △99 等
15年度: Neutec Toplam Kalite社の買収 △25

実質的な成長率

*同一為替レート換算(1ドル120円、1ユーロ130円、他)による調整



成長ドライバーは引き続き力強い成長を実現

実質的な売上成長

15年度 第3四半期累計

(対前年同期)

14年度

(億円) (対13年度)

消化器系疾患*

2,409

+10.4%

+24.7%

オンコロジー

3,338

+4.0%

+0.4%

新興国事業*

3,163

+8.1%

+5.7%

成長ドライバー全体成長率**

+8.5%

成長ドライバー全体**

タケダ連結売上

48%

* パントプラゾールは、新興国での主力製品であるため新興国事業に含め、消化器系疾患(GI)には含めない。

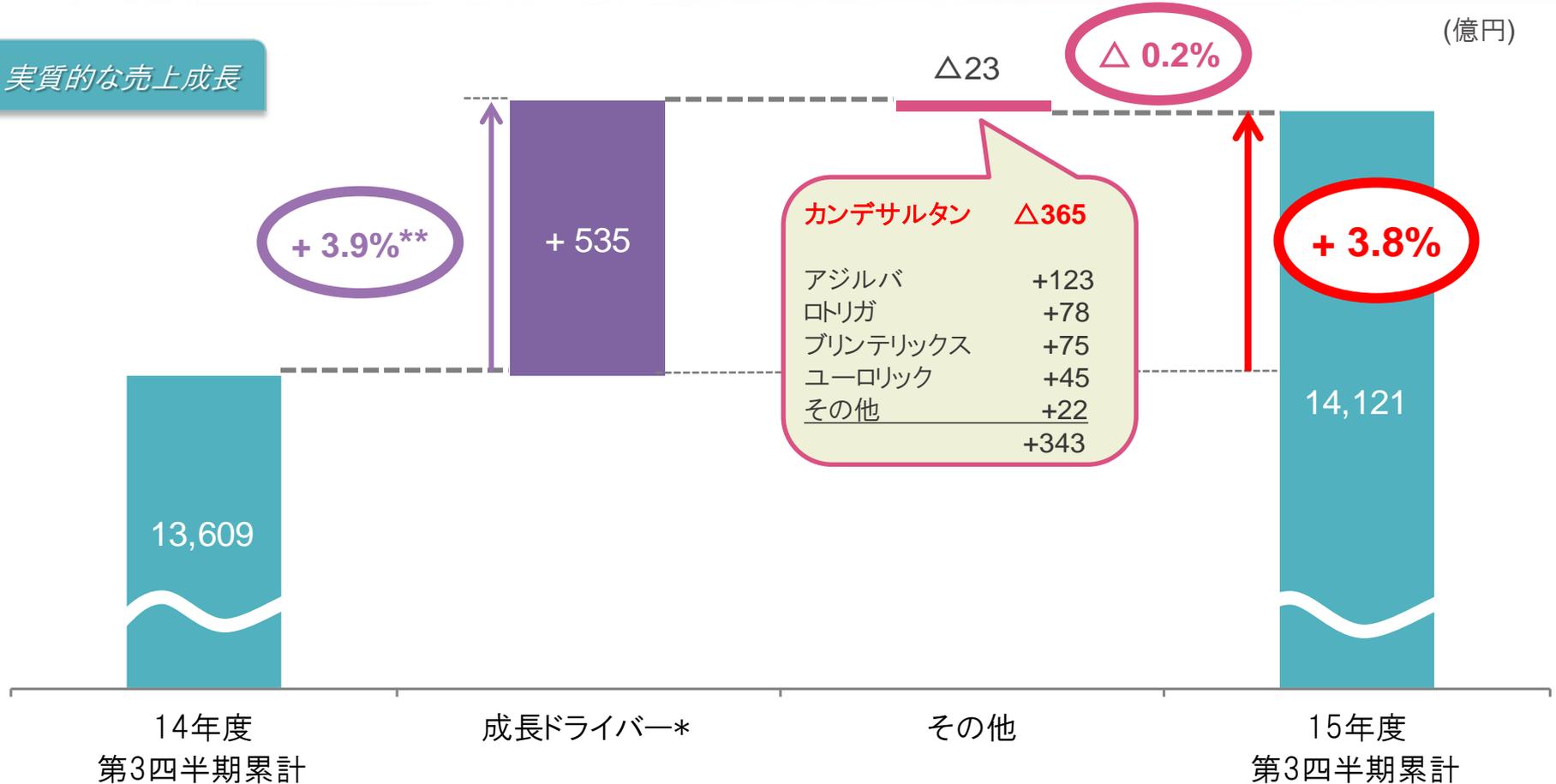
** 全体成長率は、消化器系疾患、オンコロジー、新興国事業の売上合計から重複を差し引き算出(例:新興国事業とオンコロジーのアドセトリス等)。



幅広い製品ポートフォリオの成長が特許満了影響を上回る

実質的な売上成長

(億円)



*成長ドライバーの消化器系疾患およびオンコロジー品目についてはAppendixをご参照ください。

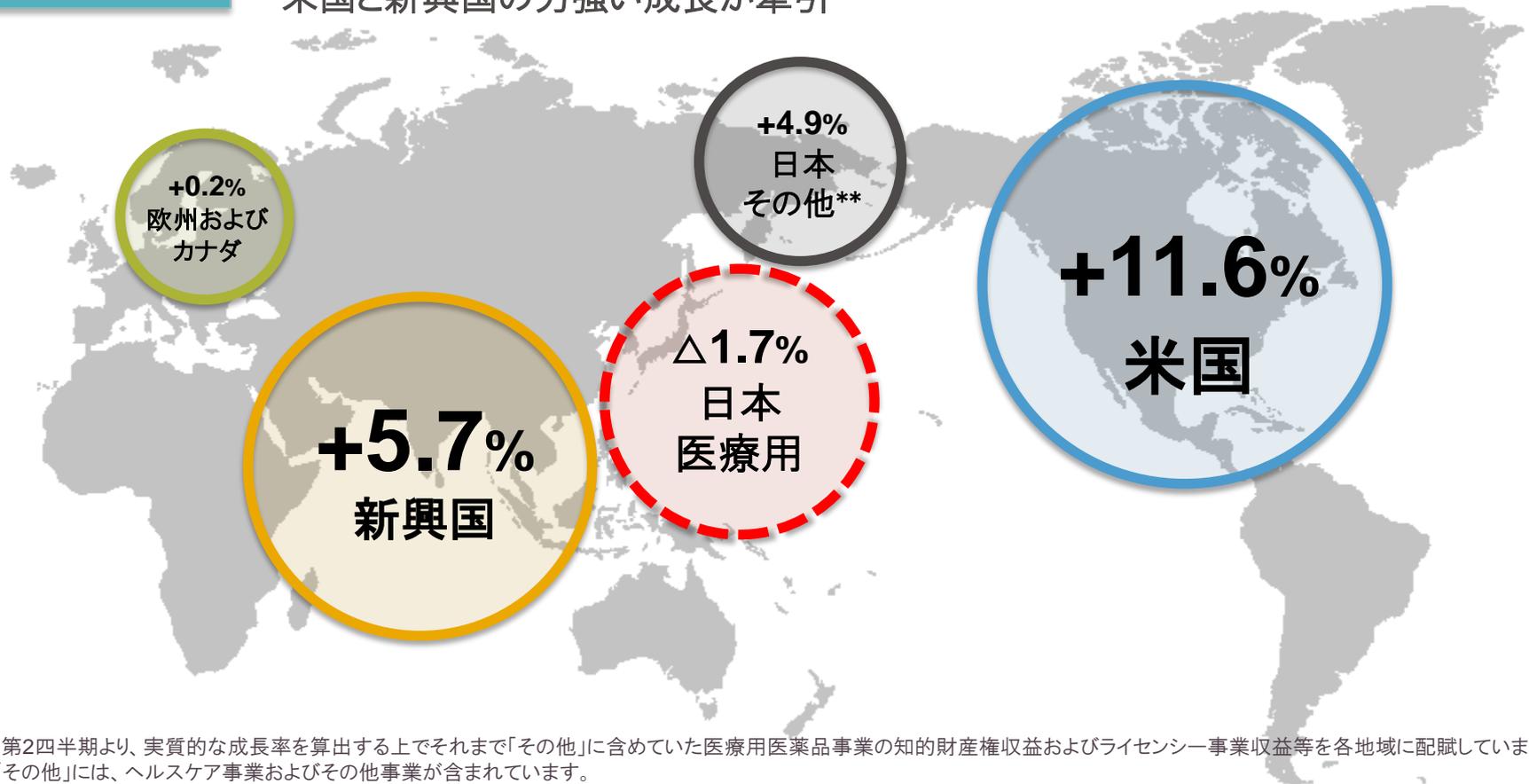
**14年度第3四半期累計の実質的な売上収益総額(13,609億円)に対する成長(+3.9%)です。14年度第3四半期累計の成長ドライバーにかかる売上収益(6,303億円)に対する成長率は+8.5%です。



米国と新興国が成長を牽引

実質的な売上成長

15年度第3四半期累計(対前年同期)の地域別売上収益成長率*
米国と新興国の力強い成長が牽引



*15年度第2四半期より、実質的な成長率を算出する上でそれまで「その他」に含めていた医療用医薬品事業の知的財産権収益およびライセンス事業収益等を各地域に配賦しています。

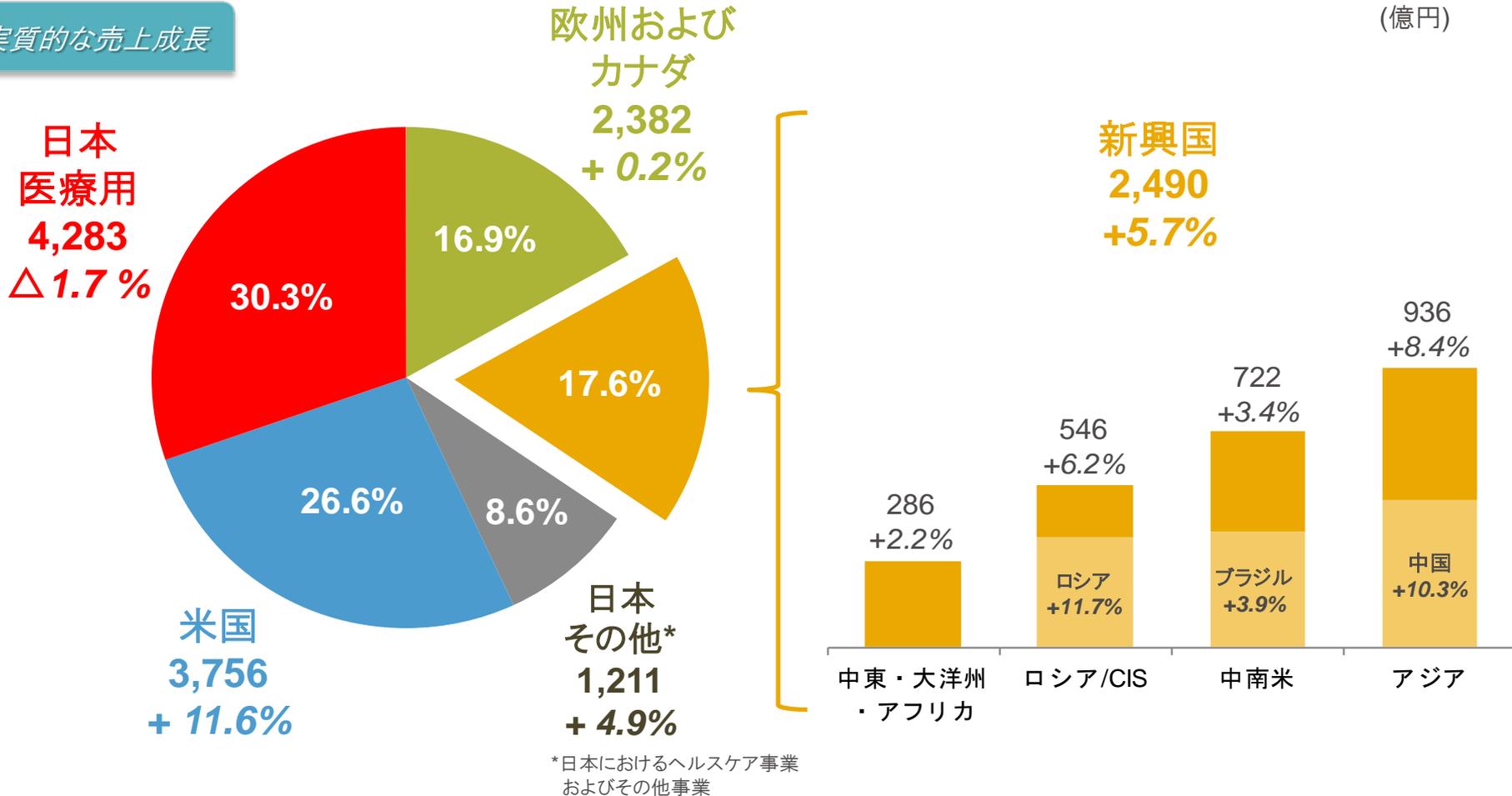
**日本「その他」には、ヘルスケア事業およびその他事業が含まれています。



新興国事業の成長率 + 5.7% (第3四半期累計)

ロシア、中国は2桁成長

実質的な売上成長





ニンラーロ® 2015年12月米国発売

有効性、安全性、利便性から、多発性骨髄腫の持続的な治療を可能にする医薬品



特徴

- 初めて、かつ唯一の経口プロテアソーム阻害剤

有効性

- 実臨床を反映した患者群にて、対象群に対し6ヶ月近い無増悪生存期間 (PFS) を延長
- ハイリスク患者にも有効

安全性

- 末梢神経障害の発現率およびグレードが低い
- 心血管毒性は確認されていない

利便性

- 週一回 1カプセルの経口投与



エンティビオ®の第3四半期売上高はタケダ製品第4位 カンデサルタンの減収を上回る成長

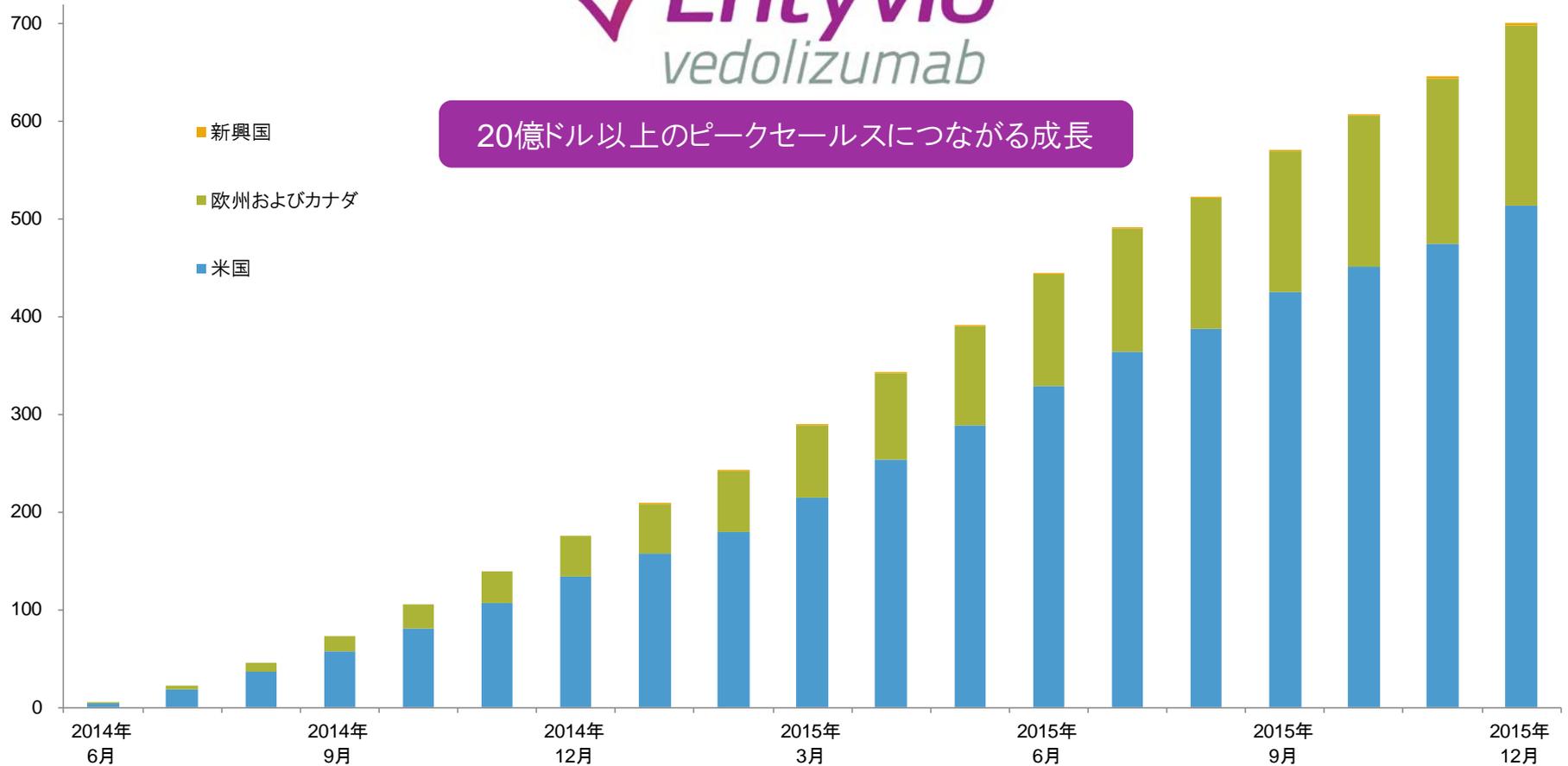
売上収益
(億円)

同一為替レート換算のMoving Annual Total(移動通年合計)
2015年12月末時点において世界21カ国で販売



20億ドル以上のピークセールスにつながる成長

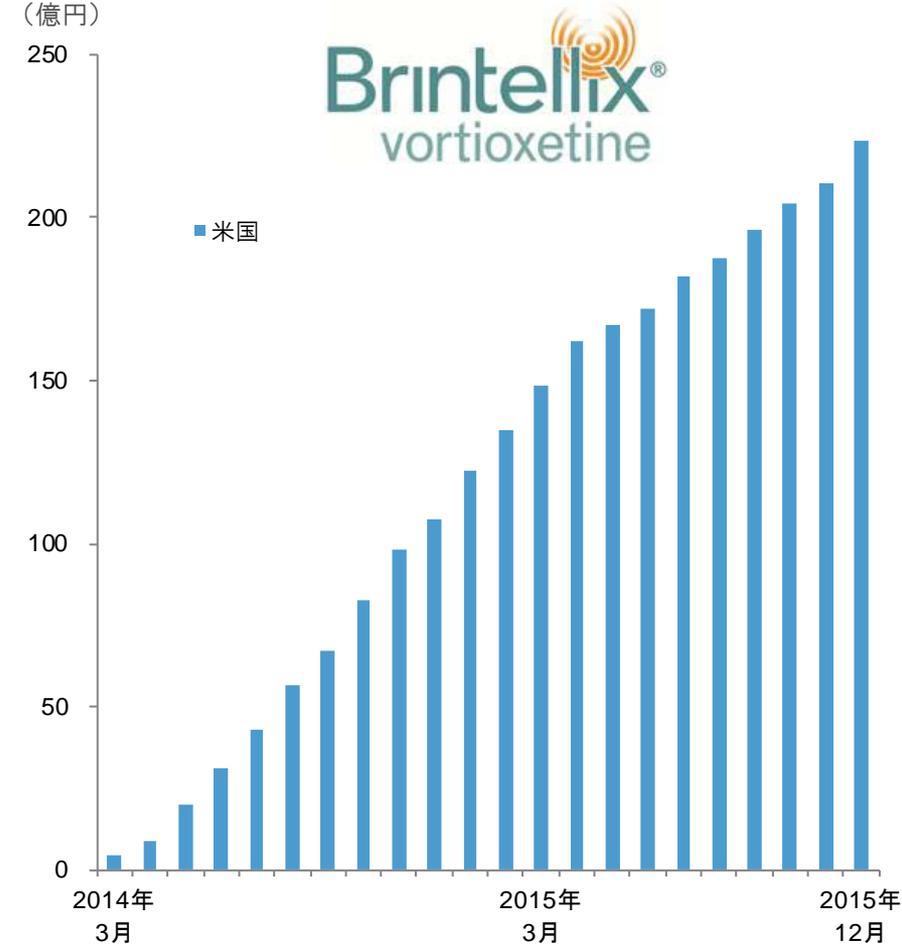
- 新興国
- 欧州およびカナダ
- 米国



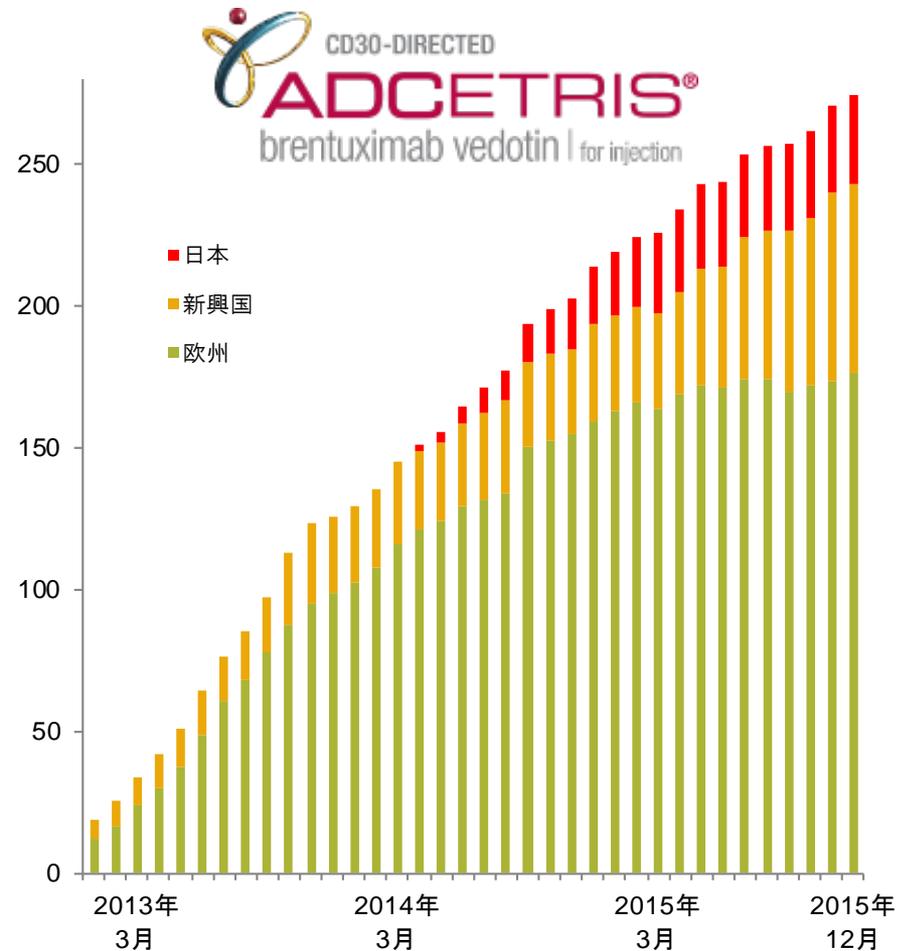


ブリンテリックス® とアドセトリス®が引き続き成長

売上収益
(億円)



同一為替レート換算のMoving Annual Total(移動通年合計)





トップ10製品 + 4 製品売上高 (1/2)

(億円)

		14年度 通期	14年度 第3四半期累計	15年度 第3四半期累計	財務ベース 成長率	実質的な 成長率
1. ベルケイド	米国	1,108	807	1,011	25.2%	8.7%
	米国以外	419	336	254	△24.5%	△33.8%
	合計	1,527	1,144	1,265	10.6%	△3.7%
2. リュープロレリン	日本	576	447	422	△5.7%	△5.7%
	米国	159	119	131	9.6%	6.2%
	欧州およびカナダ	364	275	269	△2.3%	0.1%
	新興国	142	104	136	30.4%	20.5%
	合計	1,240	946	958	1.2%	0.6%
3. パントプラゾール	米国	110	74	89	20.9%	8.4%
	欧州およびカナダ	493	378	348	△7.8%	△21.7%
	新興国	434	324	349	8.0%	3.0%
	合計	1,037	776	787	1.5%	0.1%
4. ランソプラゾール	日本	525	412	330	△19.8%	△19.8%
	米国	287	206	218	5.8%	△7.2%
	欧州およびカナダ	117	89	79	△10.8%	△7.1%
	新興国	101	75	77	2.6%	△5.1%
	合計	1,029	781	704	△9.9%	△13.4%
5. カンデサルタン	日本	946	788	473	△40.0%	△40.0%
	米国	21	15	10	△34.9%	△44.4%
	欧州およびカナダ	177	134	96	△28.1%	△31.2%
	新興国	114	82	92	11.8%	0.6%
	合計	1,257	1,018	671	△34.2%	△35.3%
6. エンティビオ	米国	201	121	440	—	—
	欧州およびカナダ	77	43	145	—	—
	新興国	0	0	9	—	—
	合計	278	164	593	—	—
7. デクスラント	米国	535	389	484	24.6%	8.8%
	欧州およびカナダ	49	36	40	11.2%	13.2%
	新興国	39	27	42	54.5%	53.5%
	合計	623	452	566	25.3%	11.8%



トップ10製品 + 4製品売上高 (2/2)

(億円)

		14年度 通期	14年度 第3四半期累計	15年度 第3四半期累計	財務ベース 成長率	実質的な 成長率
8.アジルバ	日本	454	330	453	37.2%	37.2%
	合計	454	330	453	37.2%	37.2%
9.ネシーナ	日本	384	297	292	△1.9%	△1.9%
	米国	41	29	44	49.9%	31.1%
	欧州およびカナダ	6	3	24	—	—
	新興国	13	9	23	151.6%	145.6%
	合計	443	339	383	12.9%	12.0%
10.コルケリス	米国	588	437	342	△21.9%	△32.5%
	合計	588	437	342	△21.9%	△32.5%
ユーロリック	米国	326	234	312	33.4%	16.5%
	欧州およびカナダ	6	4	5	19.9%	21.8%
	合計	332	238	317	33.2%	16.6%
アミティーザ	米国	319	228	289	26.7%	10.4%
	欧州およびカナダ	0	0	1	—	—
	合計	320	229	290	26.9%	10.6%
アドセトリス	日本	28	21	24	15.5%	15.5%
	欧州およびカナダ	163	123	133	8.2%	9.2%
	新興国	36	29	57	97.2%	110.5%
	合計	229	174	214	22.5%	26.5%
プリンテリックス	米国	136	91	181	98.0%	72.3%
	合計	136	91	181	98.0%	72.3%

タケダ連結売上に占めるトップ10製品と4製品の売上合計の割合は**61%**

*4製品はユーロリック、アミティーザ、アドセトリス、プリンテリックスであり、これら製品は、売上収益への貢献の規模と実績に対する投資家の関心の高さの観点から選定している。



新興国医療用医薬品売上収益（主要国別）

(億円)

	14年度 通期	14年度 第3四半期累計	15年度 第3四半期累計	財務ベース 成長率	実質的な 成長率
新興国売上収益	313.7	234.3	227.4	△2.9%	5.7%
中国	55.2	40.0	49.7	24.3%	10.3%
ロシア	57.6	45.8	35.0	△23.6%	11.7%
ブラジル	47.6	35.9	29.2	△18.6%	3.9%

(円)

(参考) 為替レート	14年度 通期	14年度 第3四半期累計	15年度 第3四半期累計	財務ベース 成長率
CNY	17.61	17.10	19.37	13.3%
RUB	2.59	2.80	2.05	△26.8%
BRL	45.28	45.75	35.57	△22.3%



実質的な成長 : Core Earnings



損益計算書（実質ベース）

年間ではCore Earningsの成長率が売上収益の成長率を上回る – 15年度は転換の年

(億円)	14年度 第3四半期累計	15年度 第3四半期累計	増減	
実質的な売上収益	13,609	14,121	+512	+ 3.8%
実質的な売上総利益	9,802	10,059	+257	+ 2.6%
販売費	3,251	3,422	+171	+ 5.3%
一般管理費	1,377	1,406	+29	+ 2.1%
研究開発費	2,427	2,500	+73	+ 3.0%
その他の営業収益	141	104	△37	△ 26.4%
その他の営業費用	150 ^{*1}	57	△93	△ 62.1%
実質的なCore Earnings	2,738	2,778	+40	+ 1.5%
金融損益、その他	△47	21	+68	-
実質的なCore税引前四半期利益	2,691	2,800	+108	+ 4.0%
法人所得税費用	926	732 ^{*2}	△194	△ 20.9%
非支配持分	34	36	+2	+ 6.2%
実質的なCore四半期利益	1,731	2,031	+300	+ 17.3%
実質的なCore EPS	220 円	258 円	+ 38 円	

*1 TAK-700 (orteronel) の開発ターミネーションコスト 49 (損)

*2 子会社の減資に伴う税金費用影響 -145 (益)

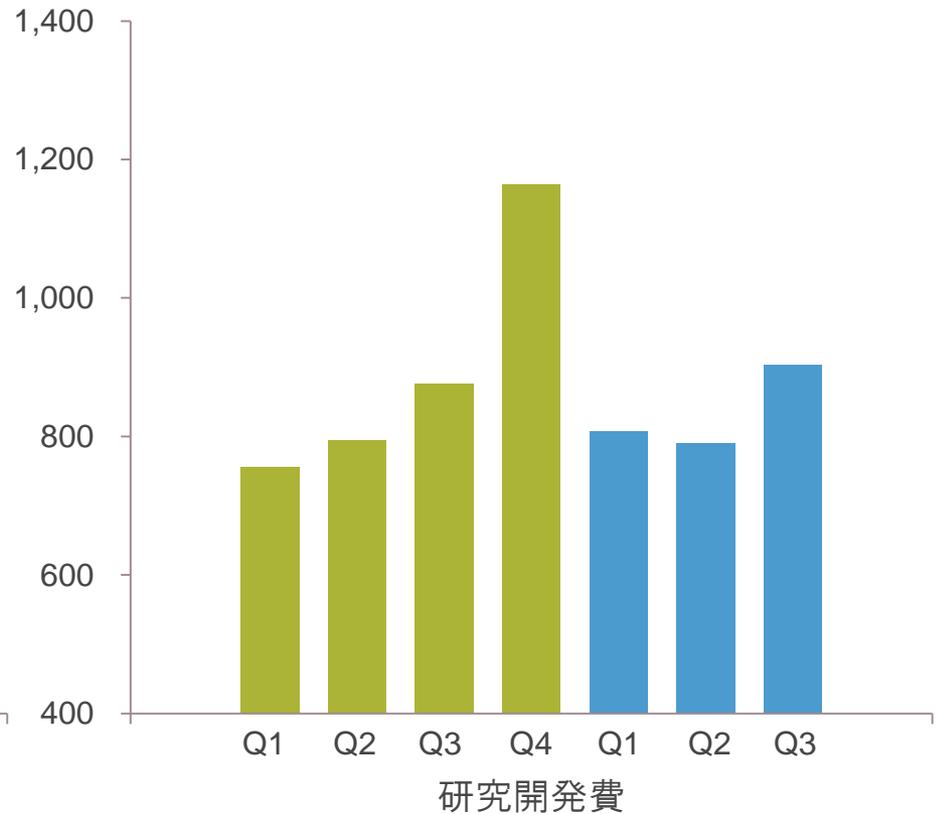
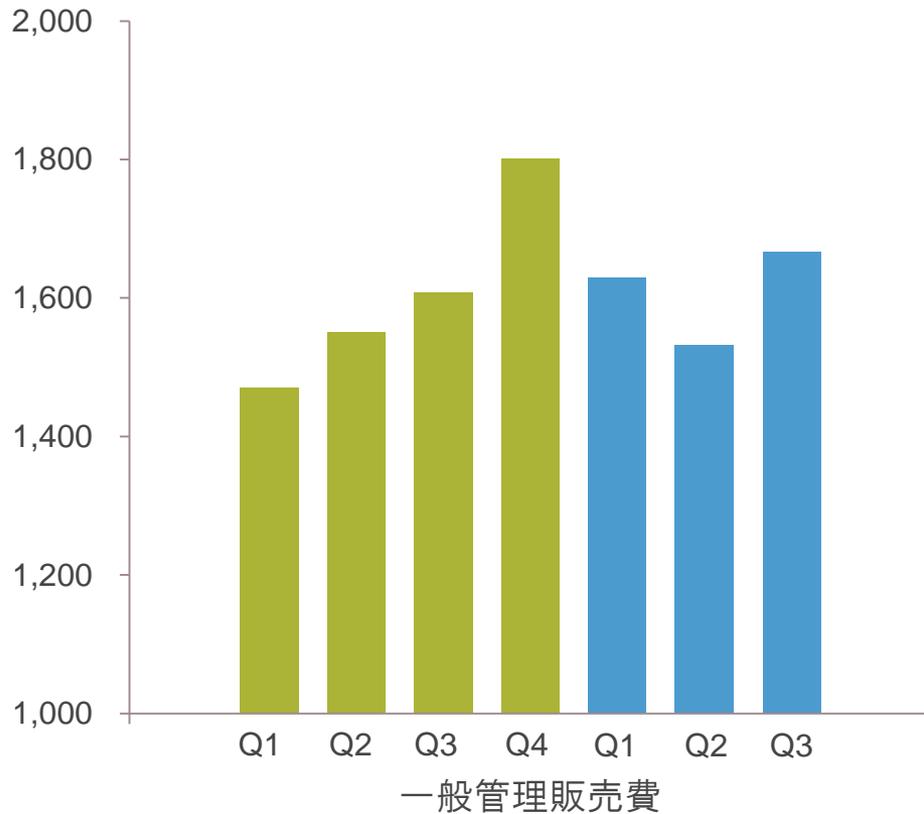


営業費用の管理に注力

実質的な成長

FY14 FY15

(億円)





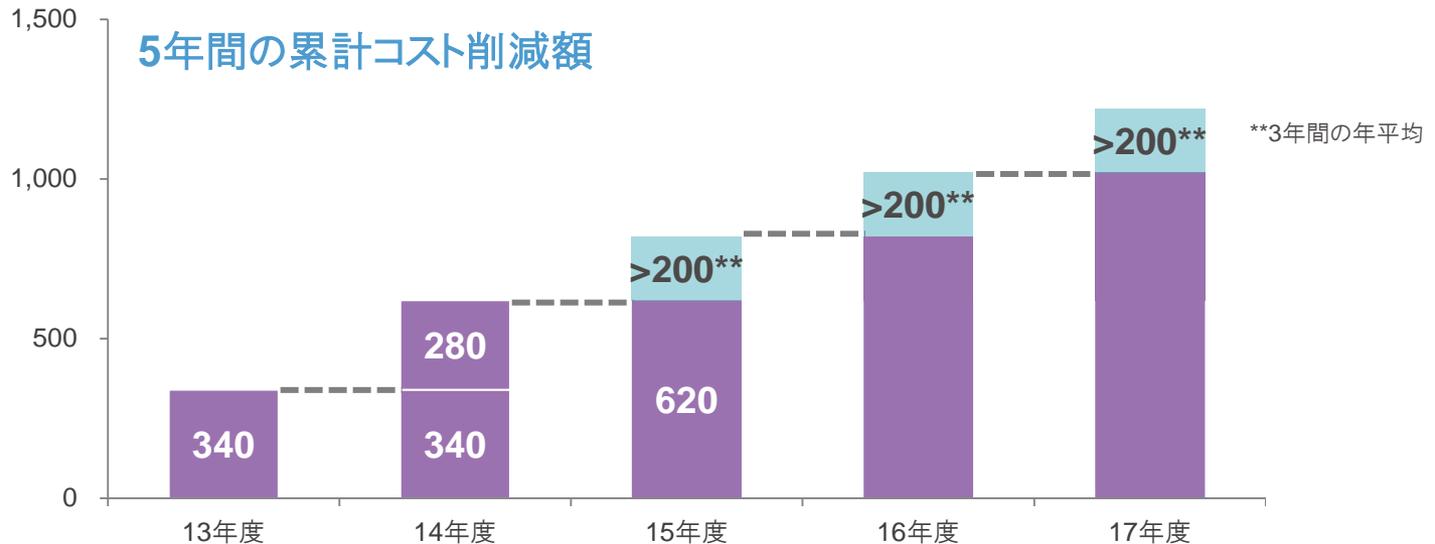
Project Summitの年間のコスト削減目標を既に達成

	15年度 第3四半期累計	15-17年度 (各年度)	13-17年度 (累計)
コスト削減額	210*	年平均 200以上	1,200以上
インプレメンテーションコスト	120	年平均 150以上	1,000上限

(億円)

* 15年度第3四半期累計コスト削減額内訳

- 62% 購買、37% 購買以外
- 33% コマーシャル、31% R&D、19% 製造・供給、17% 一般管理





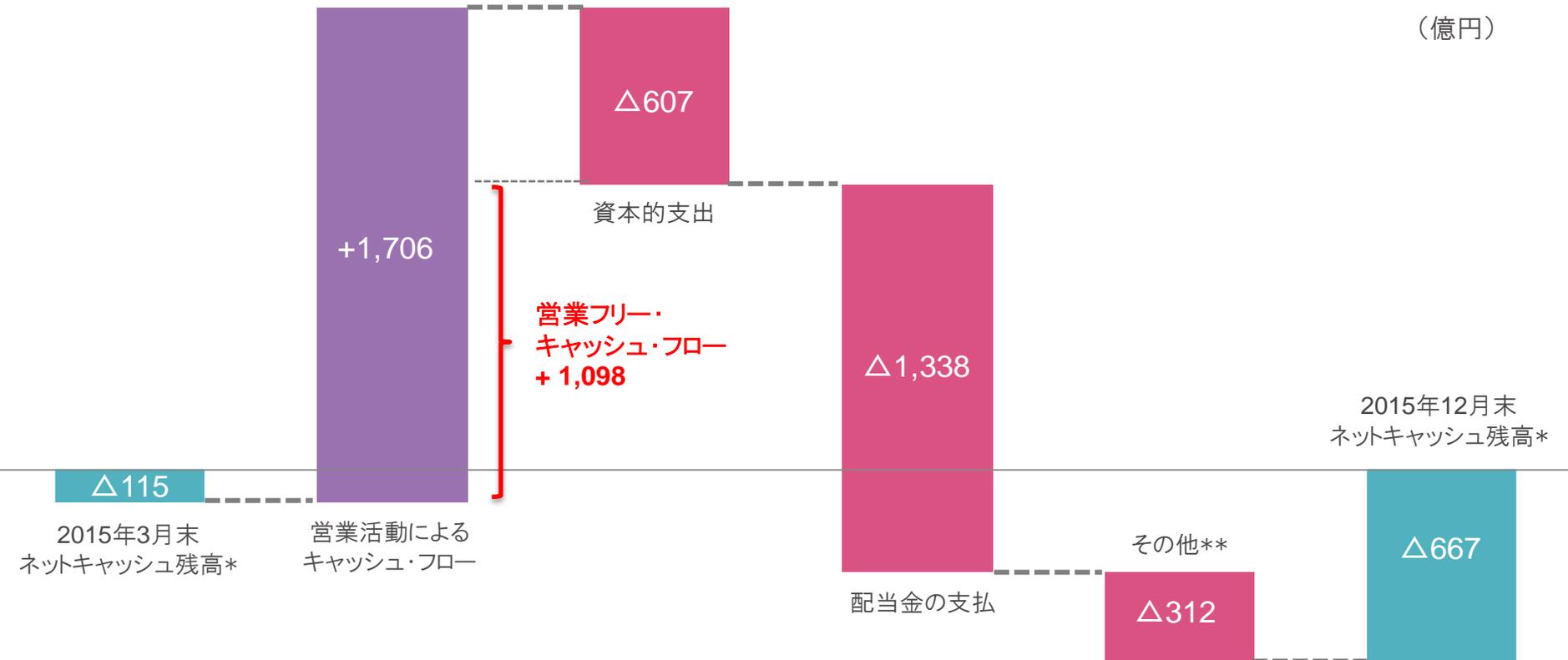
キャッシュ・フローと負債



営業フリー・キャッシュ・フローは460億円改善し、 1,000億円を超える

15年度第3四半期累計 営業フリー・キャッシュ・フロー 1,100億円
前年同期から 460億円増加

(億円)

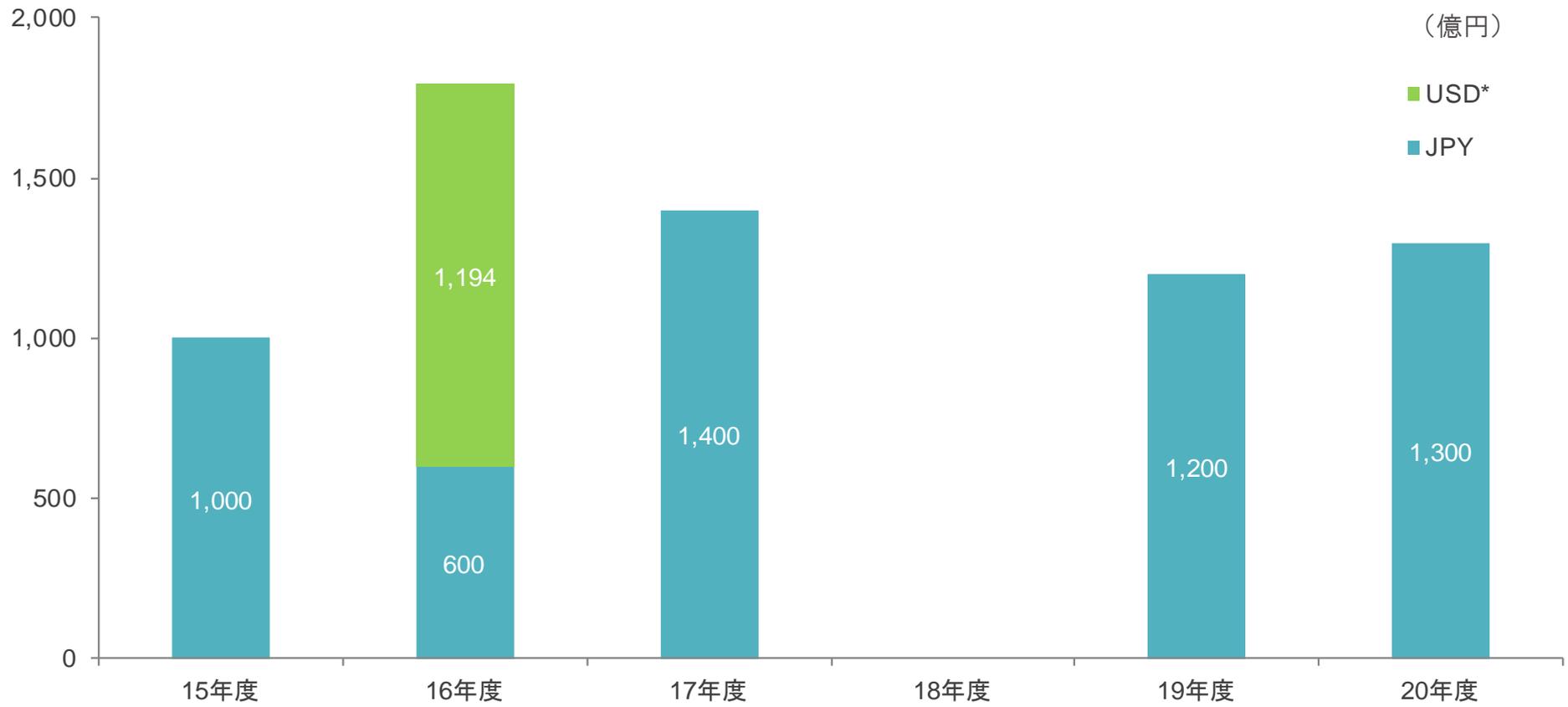


*現金及び現金同等物(期末から1年以内に決済予定の短期投資を含む)から、為替レートをヘッジしたベースの有利子負債を控除して算定しております。

**その他には、ESOP信託およびBIP信託を通じた自己株の取得等を含みます。



満期を迎える負債は借り換えへ



* USD建て有利子負債は、為替レートをヘッジしたベースでの金額としております。



公表予想とマネジメントガイダンス



2015年度公表予想 営業利益を上方修正、その他は修正なし

(億円)	15年度 前回予想	増減	15年度 修正予想*
売上収益	18,200	—	18,200
研究開発費	3,300	—	3,300
営業利益	1,050	+ 150	1,200
税引前利益	1,150	—	1,150
純利益	680	—	680
EPS	87 円	—	87 円
	換算レート		
	ドル	120 円	+ 1 円
	ユーロ	135 円	△ 2 円
			121 円
			133 円

*当社の業績は、事業環境の変化や為替変動による影響など、現在および将来において様々なりスクにさらされております。本資料に記載されている「業績予想」は、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は様々な要因により変動し、異なる結果を招きうる不確実性を含んでいます。



第4四半期に想定される業績影響

第4四半期の業績は、第3四半期までの四半期業績と比べて弱まる傾向があるが、当年度においても、当該傾向は変わらないと見込んでいる。

当第4四半期に、業績に与えるマイナス影響が想定される主な事象は次の通り。

- 第4四半期の日本の医療用医薬品事業は第3四半期までの実績から減速し、また、新興国市場においては最近の通貨安の影響を見込む
- 通期見通しには織り込み済みであるが、例年と同様、第3四半期までの実績に対して、第4四半期に営業費用が増加することを見込む
- 通期見通しには織り込み済みであるが、例年と同様、第4四半期に減損損失の大部分が発生することを見込む
- ベネズエラの経済危機に伴う同国事業エクスポージャーの評価損リスクと新興国通貨の為替差損を見込む
- 日本の法人税率の改正に伴う繰延税金資産の再評価影響を見込む



持続的な成長に向けて ～2015年度マネジメントガイダンスを維持～

売上収益の 実質的な成長	1桁台前半
Core Earningsの 実質的な成長	売上収益の実質的な成長より 高い成長率
Core EPSの 実質的な成長	Core Earningsの実質的な成長より 高い成長率
1株当たり年間配当金	180 円



2016年6月 タケダ I R イベント



2016年6月9日、木曜日

R&D戦略とオンコロジーをテーマとしたタケダIRイベントを開催(於:東京)

詳細は近日中にご連絡



Appendix



Core EarningsとCore EPSの定義

Core Earnings

- Core Earningsは、営業利益から、企業買収に係る会計処理、無形資産の償却費・減損損失、事業構造再編費用、主な訴訟費用などの特殊要因を除いて算定しています。
- Core Earningsの調整項目は次のスライドをご参照ください。

Core EPS

- Core EPSは、当期利益から、Core Earnings算定上除いた項目と同様の性質を有する項目およびこれらにかかる税金影響を除いた利益(Core Net Profit)を基に算定した1株当たり利益です。



Core Earningsの調整項目

営業利益からの調整項目		Note
1	企業買収およびライセンス導入にともない認識した無形資産の償却費	以下にかかる償却費 <ul style="list-style-type: none">企業買収にともない認識した上市後製品に係る無形資産ライセンス導入にともない生じる契約一時金およびマイルストーン(ステージアップ・販売承認申請・販売承認取得等)に係る無形資産基盤技術に係る無形資産
2	企業買収およびライセンス導入にともない認識した無形資産の減損損失	以下にかかる減損損失 <ul style="list-style-type: none">企業買収およびライセンス導入にともない認識した無形資産(上市後製品および研究開発中のパイプライン)のれん
3	企業買収に係る上記以外の会計処理の影響	<ul style="list-style-type: none">棚卸資産の時価評価にともなう評価差額の償却費条件付対価に係る公正価値変動額
4	事業、関係会社等の処分に係る損益	<ul style="list-style-type: none">事業、関係会社、遊休不動産および有価証券(*)の処分に係る損益 (*) 有価証券の処分に係る損益は金融損益であるため、Core純利益での調整項目
5	事業構造再編に関する費用	<ul style="list-style-type: none">事業統合費用導入費用
6	訴訟に係る和解金/賠償金および金額影響の大きい訴訟費用(弁護士費用)等	<ul style="list-style-type: none">ピオグリタゾン製剤に起因する製造物責任訴訟費用(弁護士費用)等
7	定常的なビジネスに関連しない特殊な事項に係る損益	<ul style="list-style-type: none">自然災害等の、会社の制御を超えて発生する管理不能な損益製品回収にかかる費用政府補助金法人所得税の還付金等



損益計算書（財務ベース）〔第3四半期〕

	14年度 第3四半期	15年度 第3四半期	増減	
売上収益	4,886	4,892	+6	+0.1%
売上総利益	3,492	3,442	△50	△1.4%
販売費	1,119	1,106	△13	△1.1%
一般管理費	430	514	+84	+19.6%
研究開発費	927	925	△2	△0.2%
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	633	301	△332	△52.4%
その他の営業収益	559	57	△503	△89.8%
その他の営業費用	120	82	△38	△31.6%
営業利益	824	570	△253	△30.8%
税引前四半期利益	744	526	△219	△29.4%
四半期利益	183	593	+410	-
EPS	23 円	76 円	+ 52 円	-

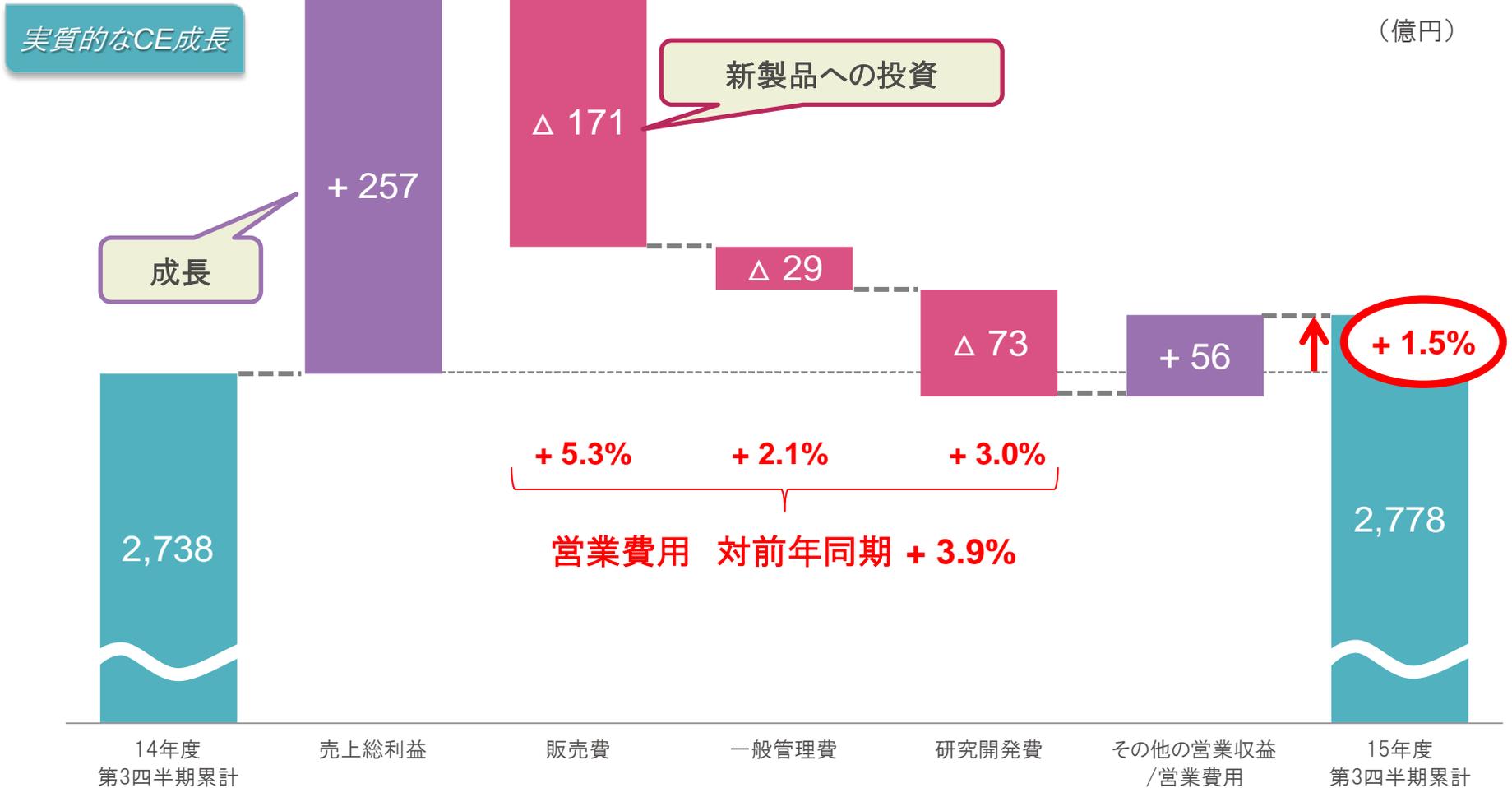


損益計算書（実質ベース）〔第3四半期〕

	14年度 第3四半期	15年度 第3四半期	増減	(億円)
実質的な売上収益	4,830	5,012	+183	+ 3.8%
実質的な売上総利益	3,470	3,541	+71	+ 2.1%
販売費	1,115	1,143	+28	+ 2.5%
一般管理費	493	524	+31	+ 6.2%
研究開発費	876	903	+28	+ 3.1%
その他の営業収益	21	13	△8	△ 38.5%
その他の営業費用	11	12	+1	+ 7.2%
実質的なCore Earnings	996	972	△24	△ 2.5%
実質的なCore四半期利益	665	881	+215	+ 32.4%
実質的なCore EPS	85 円	112 円	+ 27 円	+ 32.4%



第4四半期の営業費用を管理、 年間ではCore Earningsの成長率が売上収益の成長率を上回る





消化器系疾患、オンコロジーにおける成長ドライバー

消化器系疾患における成長ドライバー*

	製品名／一般名	発売年月**	薬効	主な適応症
1	ランソプラゾール	1992/12	プロトンポンプ阻害薬	消化性潰瘍
2	アミティーザ	2006/4	クロライドチャンネル開口薬	慢性特発性便秘症
3	デクスラント	2009/2	プロトンポンプ阻害薬	酸関連疾患
4	エンティビオ	2014/6	ヒト化抗 $\alpha 4\beta 7$ インテグリンモノクローナル抗体	潰瘍性大腸炎、クローン病
5	タケキャブ	2015/2	カリウムイオン競合型アシッドブロッカー	酸関連疾患

オンコロジーにおける成長ドライバー

	製品名／一般名	発売年月**	薬効	主な適応症
1	リュープロレリン	1985/5	LH-RH アゴニスト	前立腺がん
2	ベルケイド	2008/5	プロテアソーム阻害薬	多発性骨髄腫
3	ベクティビックス	2010/6	ヒト型抗EGFRのモノクローナル抗体	進行・再発の結腸・直腸癌
4	アドセトリス	2012/11	CD30 モノクローナル抗体薬物複合体	再発・難治性のホジキンリンパ腫
5	ニンラー口	2015/12	経口プロテアソーム阻害薬	多発性骨髄腫

*パントプラゾールは、新興国での主力製品であるため新興国事業に含め、消化器系疾患(GI)には含めない。

**世界市場において当社が最初に発売を開始した年月を表示。



成長を牽引する消化器系疾患およびオンコロジー 実質的な売上成長

(億円)

実質的な売上成長

	14年度 第3四半期累計	15年度 第3四半期累計	実質的な成長	
エンティビオ	176	588	+412	-
デクスラント	508	568	+60	+11.8%
アミティーザ	259	286	+27	+10.6%
タケキャブ	-	42	+42	-
ランソプラゾール	809	701	△108	△13.4%
消化器系疾患	1,751	2,184	+433	+24.7%
アドセトリス	175	221	+46	+26.5%
ベクティビックス	141	142	+2	+1.1%
リユープロレリン	948	954	+6	+0.6%
ベルケイド	1,294	1,246	△47	△3.7%
ニンラ-ロ	-	5	+5	-
オンコロジー	2,558	2,569	+11	+0.4%



営業利益から実質的なCore Earningsへの調整

(億円)

	14年度 第3四半期累計	15年度 第3四半期累計	第3四半期累計 成長率	第1四半期 成長率	第2四半期 成長率	第3四半期 成長率
営業利益	1,991	1,675	△ 15.9%	△ 22.2%	+ 14.9%	△ 30.8%
企業買収に係る影響	751	889				
事業、関係会社等の処分	△252	△3				
事業構造再編費用	200	123				
その他の特殊事項に係る損益	75	14				
Core Earnings	2,765	2,698	△ 2.4%	+ 2.5%	+ 6.4%	△ 13.4%
為替影響*	△20	85				
売却/取得	△7	△5				
実質的な Core Earnings	2,738	2,778	+ 1.5%	△ 0.1%	+ 7.6%	△ 2.5%

*同一為替レート換算(1ドル120円、1ユーロ130円、他)による調整



四半期利益から実質的なCore四半期利益への調整

(億円)

	14年度 第3四半期累計	15年度 第3四半期累計	成長率
四半期利益	797	1,136	+ 42.5%
EPS	101 円	145 円	+ 43.0%
企業買収に係る影響	475	627	
事業、関係会社等の処分	△199	△2	
事業構造再編費用	143	91	
試験研究費の税額控除に係る税金費用	427	-	
その他の特殊事項に係る損益	54	33	
Core四半期利益	1,698	1,886	+ 11.1%
Core EPS	216 円	241 円	+ 11.4%
為替影響*	0	149	
売却/取得	33	△4	
実質的なCore四半期利益	1,731	2,031	+ 17.3%
実質的なCore EPS	220 円	258 円	

実質的な
成長率

+ 17.3%

*同一為替レート換算(1ドル120円、1ユーロ130円、他)による調整



キャッシュ・フロー計算書

	14年度 第3四半期累計	15年度 第3四半期累計	増減
			(億円)
四半期利益	823	1,164	+340
減価償却費、償却費及び減損損失	1,804	1,454	
運転資本増減(△は増加)	△ 1,009	△ 667	
法人税等の支払額	△ 628	△ 299	
その他	504	55	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,495	1,706	+210
有形固定資産の取得	△ 358	△ 388	
無形固定資産の取得	△ 500	△ 219	
(営業フリー・キャッシュ・フロー)	(+637)	(+1,098)	(+461)
有形固定資産の売却	254	4	
投資有価証券/定期預金の売却又は償還	1,629	44	
その他	10	△ 433	
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,034	△ 993	△ 2,027
自己株式取得による支出	△ 176	△ 223	
配当金の支払額	△ 1,321	△ 1,338	
その他	△ 195	△ 68	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,692	△ 1,629	+63
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)*	838	△ 916	△ 1,754

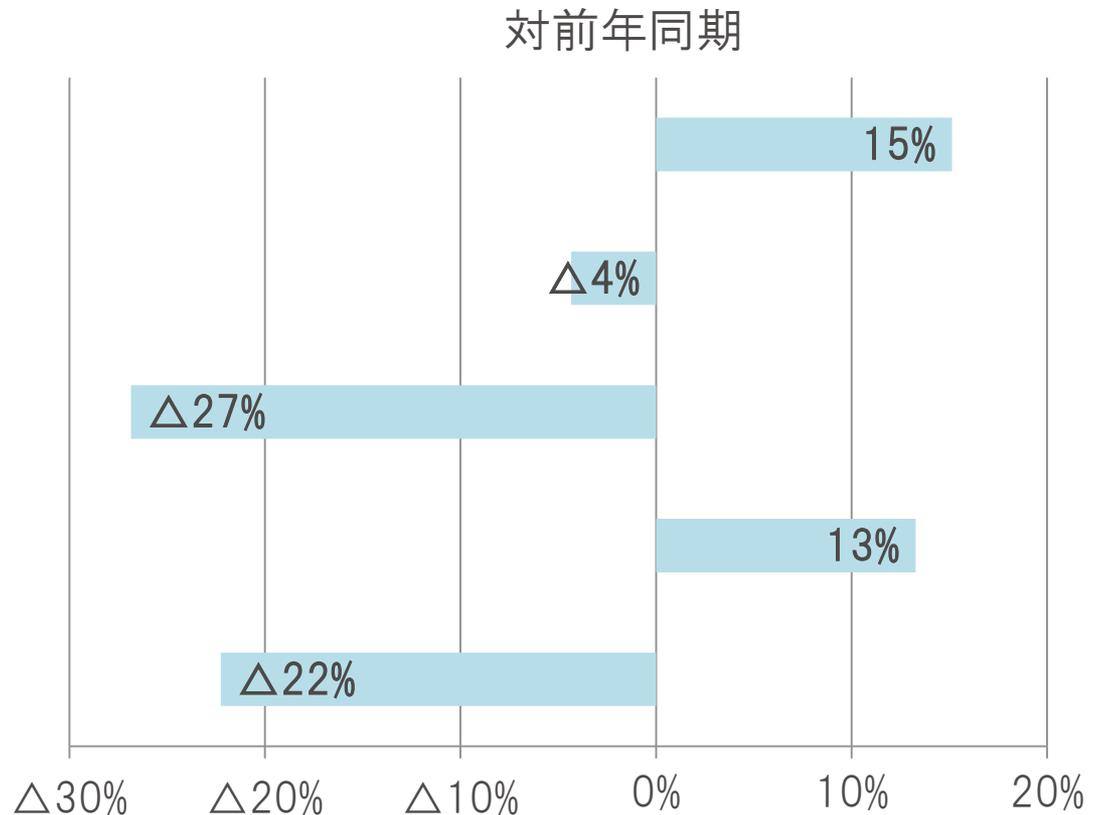
*現金及び現金同等物に係る換算差額による増減は含んでおりません。



2015年度第3四半期累計 平均為替レート

平均為替レート (円)*

	14年度 第3四半期 累計	15年度 第3四半期 累計
USD	105.68	121.68
EUR	139.71	133.64
RUB	2.80	2.05
CNY	17.10	19.37
BRL	45.75	35.57



*各月の前月末レートの平均



月次実勢レートおよび公表予想レート

(円)

実勢レート*	14年度		15年度	
	USD	EUR	USD	EUR
4月	103	141	120	130
5月	102	141	119	130
6月	102	138	124	136
7月	101	138	123	138
8月	103	138	124	136
9月	104	137	122	136
10月	109	139	120	135
11月	109	138	121	133
12月	118	147	123	130
4—12月平均	106	140	122	134

*各月の前月末レートを適用

(円)

公表予想レート	15年度	
	USD	EUR
1—3月平均	117	128
4—3月平均	121	133



1%為替円安影響

1%為替円安影響(1-3月)

(億円)

	15年度				
	USD	EUR	RUB	CNY	BRL
売上収益	14	5	1	2	1
営業利益	0	△1	0	0	0
Core Earnings	2	1	0	0	0



研究開発における疾患領域の絞込み

オンコロジー

消化器系疾患

中枢神経系疾患

精神疾患

神経疾患
(パートナーシップ)

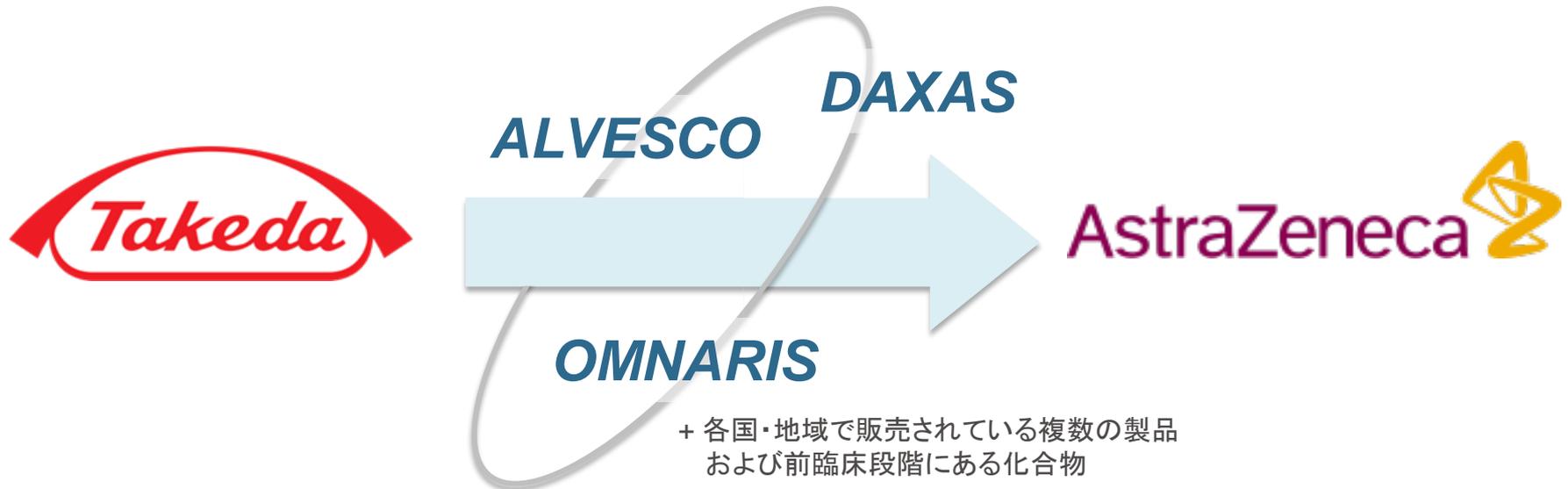
スペシャリティ循環器系疾患

ワクチン

患者さんにとって画期的で有意義な新たな治療法を創出するため、
これら疾患領域を奥深く探求し、業界をリードする研究開発力を構築



呼吸器系疾患領域ポートフォリオ売却による重点領域への特化



- 2014年度売上実績は約240億円
- 本売却は2016年3月末までに完了見込み
- 譲渡対価は無形資産・のれんの簿価とオフセット

本売却はタケダの疾患領域絞込みの一環



テバ社との合併会社設立により革新的な新薬に注力

日本政府の医療費抑制策に伴う高品質なジェネリック医薬品の安定供給のニーズの高まり



武田のブランド力と
強固な流通網

複数の長期収載品
(プロプレス、タケプロン、ベイスン等)

49%保有



新会社は2016年4月以降に設立

患者さんに
幅広い製品を提供



グローバルなジェネリックリーダーである
テバ社の専門性

高品質のジェネリック医薬品

51%保有



- 武田が新会社に移管予定の長期収載品の2014年度売上実績: 約1,250億円 (2015年度はジェネリック医薬品の市場浸透によりさらなる減収を想定)
- 武田は長期収載品の供給にかかる収益、新会社製品(ジェネリック医薬品と長期収載品)の流通にかかる収益を認識
- 武田の2016年度売上収益への減収影響は約500億円を見込む
- EPSおよびキャッシュ・フローは2016年度以降も、長期にわたり漸増することを見込む

Better Health, Brighter Future



武田薬品工業株式会社